

コード 25-NPF-001

提出日：令和 8 年 4 月 30 日

令和 7 年度「平和にユナイト！パキスタンにおける青少年の 地域平和活動とアフガニスタンとの連帯」報告書

団体名：一般社団法人平和村ユナイテッド 記入者名：小野山亮

1. プログラムの目的

◎目的：暴力的な過激主義の影響を受けやすい青少年層による平和的な地域社会活動により、地域から暴力や紛争をなくしていくこと。◎その背景と必要性：パキスタン・アフガニスタン両国国境地帯には、両国政府や外国軍と戦闘を続ける様ざまな武装勢力が存在してきた。両国とも戦闘や暴力の犠牲に苦しみ、復讐心などからの過激主義の影響の恐れも指摘される。青少年は過激主義の影響を受けやすく、青少年によって自爆攻撃が行われることも多いともいわれる。平和的・非暴力的な自己実現・社会参加・平和活動の場の提供や平和活動自体の促進が必要である。また、両国間には「自分たちを攻撃する武装勢力を相手国側が支援している」といった相互非難も存在してきた、両国間の信頼醸成、ともに平和をつくるための連帯も必要である。2021 年にはアフガニスタンでタリバンが実権を握り、パキスタン側の国境地帯でも武装勢力の活動が活発になっている。戦闘や事件が続き、暴力は急増している。タリバンによる「パキスタン・タリバン運動」(TTP) 指導部のアフガニスタン内での庇護や TTP 活動への便宜供与、「IS」を名乗る勢力、アルカイダ、他「テロリスト」グループのアフガニスタン内での存在についても国連文書で指摘されている。そうした中、パキスタンはアフガニスタンの多数箇所に空爆、国境付近では両国の激しい戦闘に至った。2019 年度開始の当活動では、悪化する状況に対応し、両国国境により近い地域でも活動する、2021 年の激変を受けたアフガニスタン難民青年の活動参加も図るなどの試みも取り入れてきた。さらなる治安状況の悪化にも対応する必要がある。

2. 主な活動内容・スケジュール

◎上記を踏まえ、今年度は、青年たち自身が立案・実施する平和活動（地域ピースアクション）を、意識啓発を行う性質の活動というよりも、特定の具体的な問題解決に取り組む性質の活動とし、単発のイベントというよりも、期間中の半分近くをこれにあてるという新規の試みを行った。厳しい状況の中だけに、極めてチャレンジングな、そして、その中で具体的問題解決に取り組むだけに、極めてインパクトのある活動である。

【活動 1：準備活動】活動計画最終化、スタッフへの説明と研修、関係者への活動の導入的説明・協力要請など（4・5 月）。研修マニュアル（ピースマニュアル）の作成（7 月）。【活動 2：関係者との協議】地域社会の人びと、諸関係者が参加する協議。地域社会を構成する多様な層への活動内容説明、協力要請など。（7 月）【活動 3：指導者研修】社会に多様に広がる過激化の場に鑑み、地域社会の多様な青少年層から、地域社会からの平和づくりを主導する青少年を、参加者として選ぶ（8 月）。平和をつくる活動についての知識や技術を、参加型の学びの手法をとりながら、実践的に、十分に身につけてもらう。（9-10 月）【活動 4：地域での平和活動（地域ピースアクション）】研修を受けた青少年の発案・主導で、地域の人たちの協力も得て、現実的、実践的な、平和に資する地域平和活動を作成、実施（11-3 月）【活動 5：アフガニスタンとの交流・平和のための両国間の連帯】この活動を通じて、両国の青少年間の交流や連携を行い、平和のための両国間の信頼醸成や連帯を実現する。（期間を通じて）

3. 助成を受けた活動の報告

【活動1：準備活動】活動計画最終化、スタッフへの説明と研修、関係者への活動の導入的説明・協力要請、研修マニュアル（ピースマニュアル）の作成（安全管理に配慮しながら女性の写真をさらに追加）を実施。

【活動2：関係者との協議】6回実施：ペシャワール4回（パキスタン男性2・パキスタン女性とアフガニスタン女性1、アフガニスタン女性1）、ハイバル2回（パキスタンとアフガニスタン男性1・パキスタンとアフガニスタン女性1）。計63人参加（地域社会の人びと、地域の市民社会組織（CSO）、地方自治体議員、宗教指導者、メディア、教員ほか）。活動内容説明、活動参加青年の選定についての協力要請などを行った。

【活動3：指導者研修】



参加者24人を選定：女性12人（ペシャワール6、ハイバル3、アフガニスタン難民3（新旧難民各2・1）、男性12人（ペシャワール7、ハイバル2、アフガニスタン難民3（新旧各2・1））。学生、教員、脆弱なコミュニティからの青年を含む。リーダーシップの潜在性や平和構築への意欲から選定。選定過程では、地域の人びと（宗教指導者、長老、教員、地方自治体議員）、すでにパートナー団体に関わっている、活動参加している青年、地域の女性たちの協力を得た。研修は男女に分かれて各1回実施。（ハイバルの男性参加者の兄弟1人も参加し、男女計25人）以下の事柄などについて説明・議論：◎平和・人権・非暴力、平和的共生や社会的調和の促進における青年の責任、◎コミュニケーション・交渉・仲裁の技術、紛争防止や平和構築におけるコミュニケーションの役割、◎不寛容や過激主義に至る地域の青年たちの課題、創造性に富んだ地域を基盤にした解決方法、◎「コンフリクト・ツリー」や紛争分析枠組み、紛争の原因・段階・関係者・きっかけ・潜在的な平和構築者、◎ハイバル・パシュトゥンフア（州）からの非暴力と歴史的視点、非暴力の偉人「バチャ・ハーン」、パシュトゥンの文化規範「パシュトゥンワリ」、◎イスラムの観点からの平和、◎今後実施していく地域平和アクション。また、グループに分かれ、以下のそれぞれのテーマについて議論した。[女性グループ]：◎いわゆる「名誉殺人」の問題、◎父親の資産の女性への移転をめぐる争い、◎女性の教育をめぐる争い [男性グループ] ◎ドラッグの乱用とストリートでの暴力、◎家族Aと家族Bの間での土地をめぐる争い、◎2つの宗派間でのモスクへのアクセスをめぐる争い

【活動4：地域での平和活動（地域ピースアクション）】

以下の6つのアクションが青年たちによって立案・実施された。取り組む問題はきわめてセンシティブなものであり、地域の人たちの協力も得る、関係者との話し合いを重ねる、状況把握を行う、相手の話をきちんと聞く、適切な話し合いの形態や場所を選ぶ、関係者の信頼を得るなどの手法も取られ、慎重に実施された。

◎宗派間の調和と平和的共生の促進（場所：ペシャワール）

<背景>

- ある地域社会で、パンジパリとタブリギの2つの宗派間の緊張が増大していた。パンジパリ・グループは多数で、共有空間で支配的になることも多く、タブリギの人たちは共有イベントで孤立や不安全感を感じていた。誤解や噂が小競り合いになっていたが、地域の争いで2人が銃撃され、事態がエスカレートした。



<参加者>

- 研修を受けた青少年（男性グループ）（立案・実施）、両宗派の人びと、地元の青少年、宗教学者、地方自治体議員、教員、地域指導者、地域の人びと

<活動・成果・課題の概要>

- 社会的な力学を理解し、双方の主要な関係者を理解するための地域評価
- 各宗派との個別の協議では、自身の懸念や、認識、経験を共有してもらった。
- 尊敬される二人の長老による中立の仲裁者としての関与
- 中立性、包摂性、敬意を払うコミュニケーションに配慮した手法での両宗派の対話、銃撃事件についての話し合い
- 扇動的なスピーチを抑えること、対話を通じた紛争解決、青少年が挑発的な振る舞いを避けるようにガイドすることを含む、実践的な非暴力の取り組みの合意を行った。
- 長老や宗教学者による、共有価値、相互尊重、宗教解釈における相違に関わらず結束することの重要性の、地域社会での発信なども行われた。
- 地域社会の力学をモニターし、紛争を仲裁し、緊張発生時の最初のコンタクト先の役割を担う、各宗派3人で計6人、青少年の代表も含んだ地域平和委員会も設立された。
- 交互に替わる地域の寄り合い場での定期的な委員会会合、早期警戒の中心点としての青少年の関与、宗教学者が主導する定期的な意識啓発セッションの継続を含む、持続的平和のための実践的なステップを概説する地域アクションプランも策定した。
- この活動の締めくくりのセッションでは、両宗派からの長老が公に握手をし、集団での祈りにともに参加し、共有される平和への取り組みを示した。
- 来ないよう青少年たちを止めた人たちもいたが、活動は上記のように大きな成果を上げた。

<ストーリー>

活動を通し、その取り組みや熱心さが際立っていた青年がいた。活動の完了時にこの青年が近づいてきて、極めて個人的な内省を語った。この活動に参加する前、この地域で展開する宗教的な武装集団にかかわっていたのだという。しかし、最初のこの活動への参加で、対話、共生、平和的な地域関与についての新しい見方に触れたという。敬意のある環境、ファシリテーターの肯定的な振る舞い、力強い平和のメッセージが、次第に自分の考え方に影響を与えたと説明した。時が経つにつれ、これまでの信念や選択に疑問を抱き始め、継続的な交流と学びを通じて、道を変えることを決意したという。この日、希望と、地域での平和の促進への決意を、より感じる、と話した。今、彼は、平和の取り組みをサポートし、暴力ではなく対話を通して争いを解決するよう、他の人に促している。

◎ジェンダーに基づく暴力サバイバー10人へのシェルター紹介とサポート（場所：ペシャワール）

<背景>

- ・ この女性たちは、日々の食料と交換に地域の家庭で働き、不安定なテントで暮らし、言葉でのハラスメント、社会的烙印、不安定に直面していた。続くトラウマやネグレクトのため、物質使用で対処していた女性たちもいた。



<参加者>

- ・ 研修を受けた青少年（女性グループ）（立案・実施）、サバイバー女性、地元の青少年、地元の女性活動家、シェルタースタッフ、社会福祉省スタッフ、地域指導者、地域の人びと。

<活動・成果・課題の概要>

- ・ 女性たちのアイデンティティの確認、即時保護や福祉の必要性の評価のための慎重な家庭訪問
- ・ 女性たちによる、食料不安、衛生用品欠如、感情的な苦悩、場合によっては物質依存に関連する懸念共有
- ・ 特定の男性長老たち、宗教学者、地域の仲介者との議論なども行い、地域の評判や家族の名誉にも配慮し、移転を、公然の、あるいは恒久的な分離というよりは、安全と回復を目的とする一時的な保護措置の形態とした。
- ・ 公の注目を避け、プライバシーを確保するため、注意深く選ばれた時間に小グループでシェルターに移動した。
- ・ 到着後、診察や初期的な心理社会的評価を行ってもらい、衛生用品・服・安全な宿泊施設を含む、差し迫って必要なものに対処してもらった。
- ・ 健康・福祉、カウンセリングへの参加、リハビリの進捗をたどるために、シェルター側との定期的調整を通したモニターメカニズムも設置し、フォローアップの訪問も実施した。
- ・ 噂や報復的な言論を防ぐため、支えてくれる地域の長老たちには最小限の情報共有を維持した。
- ・ 包括的なリハビリ、長期的な社会統合については、依然、継続する心理社会的サポート、技能開発、事例対応を必要とする、進行中のプロセスである。

<ストーリー>

サバイバー女性の一人は、かつて人生と夢に希望を失っていたが、学校に入学し、定期的に通うことを決めた。以下のように語っている。

「私は人生に、そして夢さえにも、すべての希望を失っていた。しかし、定期的なやり取りを通し、自分自身のための新たなスペースをつくるやる気と勇気を見出した。私は自分に言った。「人生は終わっていない。立ち上がって、希望を取り戻せ」と。教育を受けることはいつも私の最大の夢だった。そして今、皆さんの支援と指導のおかげで、ついにそれを追い求めることができる。皆さんが私の人生にいてくださり、本当に恵まれていると感じています。」

◎アフガニスタンとパキスタンのコミュニティ間の調和と平等な生計機会の促進（場所：ペシャワール）



＜背景＞

- ・ ボード・バザールは地域の家族にとって日雇い労働の主要な源となっている。ジャラル・グループ（パキスタン人）は地元の人に排他的な労働の権利があるとして、ナキブ・バチャ・グループ（アフガニスタン人労働者）のこれら機会へのアクセスを妨げてきており、言葉での脅し、身体的威嚇などを含む、報告されている約 10 の主要な紛争がある、繰り返される争いに至ってきた。アフガニスタンのコミュニティは主に、限られたリソースしかない難民からなり、生き残るためにこれら日雇い賃金に依存している。パキスタンの労働者は収入の喪失を恐れ、アフガニスタンの人たちはハラスメントや疎外を恐れた。

＜参加者＞

- ・ 研修を受けた青少年（男性グループ）（立案・実施）、両コミュニティの人びと、宗教学者、宗教宗派メンバー、地域指導者、地域の人びと。

＜活動・成果・課題の概要＞

- ・ バザール訪問。いかに労働機会が分配され、いかに競争が起き、何が典型的に争いを引き起こすかの理解のための労働者、店主、運輸労働者との会話
- ・ 各グループとの個別協議
- ・ 継続的な対話のファシリテート
- ・ 尊敬される地域の長老、店主、運輸労働者による、さらなる衝突を防止するための努力のサポート促進などを行った。
- ・ 以下のような結果が得られた。
- ・ 日雇い労働ポイントへの交代アクセス導入、エスカレートする前の争いの早期報告、交流を育み、不信を軽減するための労働者間小規模協力作業の促進などが合意された。
- ・ 地域のモニター委員会が設立された。3 人の尊敬される長老、2 人の研修を受けた青年、1 人の店主の 6 人からなり、異なる関係グループの代表性とバランスの取れた意思決定を保証した。委員会は、合意された実践の遵守の監督、早期段階での小さな紛争の仲裁。アフガニスタンとパキスタンの労働者間の開かれたコミュニケーションの維持の任を与えられた。
- ・ 双方のコミュニティからの地域の青年たちは非公式の早期警戒システムの一部として活発に関わり、労働ポイントでの交流を定期的に監視し、緊張や潜在的な紛争のいかなる早期サインもモニター委員会に報告した。
- ・ アフガニスタンとパキスタンの労働者は大きな紛争なく同時に労働ポイントにアクセスし始め、実際に起こった紛争はモニター委員会を通して迅速に対処され、エスカレートを防いだ。
- ・ 双方のコミュニティからの青少年と労働者は、お互いに挨拶し、労働機会についての情報を共有し、時に、日々の仕事の間、助け合っているのが見られた。

◎地域社会の抵抗による女性の学校中退を減らす（場所：ハイバル）

<背景>

- ・ この一帯の一定の地域では、少女の教育は、文化的な解釈、社会的な規範、そして宗教上の懸念事項とされるものに根ざした抵抗に直面し続けている。家族Aと家族Bは、ある地域社会で顕著な権威を持っており、社会的、道徳的な事柄に関して頻繁に相談を受ける。彼らが女性教育を思いとどまらせていることは、自身の世帯だけでなく、拡大家族ネットワークと近隣の家族にも影響を及ぼしている。さらに、これら家族の女性たちは他の少女たちに学校に出席しないように積極的に助言しており、中退の傾向を強化してしまっている。



<参加者>

- ・ 研修を受けた青少年（女性グループ）（立案・実施）、家族の人びと、地元の青少年、宗教学者、教員、地域指導者、地域の人びと。

<活動・成果・課題の概要>

- ・ 世帯や地域レベルで少女の教育に関する意定がいかなるものになるかの理解、そうした決定に影響を及ぼす主要な人はどのような人かという理解のための、地域の長老、地域の政治的人物、宗教学者、教員、学校に通う少女たちの親との非公式の協議を行った。
- ・ また、必要な場合には尊敬される地域の人たちに付き添ってもらった両家族訪問を行い、正式な決定における年長男性家族の役割、より若い女性と少女の認識を形作るにあたっての年長女性の影響などが注意深く観察された。
- ・ このような活動の間、世帯構成、教育的背景、内部の決定プロセス、少女の教育についての支配的な考え方に関して詳細な情報が得られた。
- ・ 一対一の対話も実施し、少女の教育と文化的、宗教的価値との両立、教育を受けた女性たちが文化的伝統を維持しながら社会に肯定的に貢献している実例などが話された。家族の中には社会的な評判、安全、宗教的な適切さについて、懸念を示す人々もいた。
- ・ 家族Aの年長男性たちは社会的認識について留保を示した。
- ・ さらに家庭訪問、年配者たちとの小グループ議論が行われた。
- ・ 宗教学者は宗教的な観点を明確にし、また、同様の境遇の尊敬される教育を受けた女性たちのサクセスストーリーが共有された。
- ・ 最終的に両家族とも、自身の世帯と拡大家族ネットワークの中で女性教育の促進に取り組むことを正式に表明し、この取り組みを守り、地域内で少女の通学への肯定的な姿勢を促進すると確約した。また、両家族は、4月から始まる、来る新しい学校セッションに自分たちの若い少女たちを入学させると約束した。
- ・ 宗教的な人びとのグループが、これらの人びと（この活動の関係者）は反イスラム的でアメリカのエージェントであるから、一緒に活動しないよう、人びとに伝えたり、（原文が不明確なため訳出にあたり意味を類推）また、武装した人びとのグループが青少年たちにこの活動をやめるように脅すこともあったりしたが、活動は上記のように大きな成果を上げた。

◎青少年間の薬物違法使用の削減（場所：ハイバル）

<背景>

- ある地域で、薬物の違法販売が雇用のない特定の青少年たちの間で常態化していた。確認されたグループは、孤立せず、結束の強いストリートをベースにしたネットワークの中で活動していた。経済的な不安定、国境地帯取引の風土、限定的な職の機会、仲間からの圧力が彼らの関与に影響していた。



<参加者>

- 研修を受けた青少年（男性グループ）（立案・実施）、地元の青少年、地方自治体議員、宗教学者、家族の年配者、店主、地域指導者、地域の人びと。

<活動・成果・課題の概要>

- 青少年や日雇い労働者が夕方集まる典型的な場所で時間を過ごす。
- カジュアルな会話や観察による麻薬分配をめぐる地域の力学の理解。
- 意欲のある地域の他の青少年たちにもこの活動に関与してもらい、小規模な地域の青少年ネットワークを形成。
- 違法販売グループメンバーとの慎重な一対一の対話。地域の若者が直面する困難についての率直な対話を促す。
- 地域の青年たちとの地域に影響する事柄についての多数の議論。
- グループの一定のメンバーと尊敬される地域の長老たち、かつてのドラッグ使用者を含んだ、ドラッグに関わるリスクなどについての小規模グループ議論。
- 地域で影響力を持つ人たち（尊敬される長老、地域のスポーツ選手、宗教学者、地域指導者を含む）によるドラッグに関するリスクや懸念などについての地域での発信。
- グループメンバーにドラッグ分配に関与することを再考していくよう促進。
- 特に公の人が集まる空間でドラッグ販売が目に見えることを減らすことや、自身の最寄りの近隣で未成年にドラッグを供与することをやめることに合意した人たちもいた。グループメンバーとともに可能な他の生計手段も模索した。
- 行動変容の確認、グループとのコミュニケーション維持のためにフォローアップ訪問も実施した。主要な公の空間での目に見えるドラッグ販売は顕著に減少した。関与を減らしたメンバーもあり、建設の仕事や積み荷の仕事のような他の生計の選択肢を模索し始めた人も数人いる。また、長老たちはより警戒をするようになり、親たちは、より若い男の子たちがドラッグ取引がかつて行われていた深夜の集まりに参加するのを、ますます思いとどまらせるようになった。一方で、この活動は、長期的な変化を確実にするための継続的な関与と持続的な生計機会の必要性を強調するものとなった。
- ドラッグ販売ネットワークとつながる人びとの中には、活動実施する青少年たちがこの地域にいることに不快感を示し、活動をやめるよう圧力をかけようとした人たちもいた。しかし、青少年の敬意を持ったアプローチ、尊敬される地域の人びととの調整により、公然たる対立を引き起こすことなく活動を続けることができた。また、ある段階で、ネットワークにつながる個人からの攻撃的な振る舞いにより、青少年は目に見える活動を一時的に中断せざるをえなくなった。この状況に対処するため、青少年は尊敬される地域の人びとと地元の政治代表に支援を求め、この人びとが、さらなるエスカレートなく議論を継続するのを可能にする、より安全な環境をつくるのを助けた。

◎家族内における女性の尊重と平等な権利の促進（場所：ペシャワール）

<背景>

- ある地域でよく知られた裕福な影響力のある家族（一族）では、女性たちは、基本的権利、特に自由に結婚する権利を否定されていた。男性年配者が示した主要な懸念は、家族外の結婚は農地の他の家族への移転に至る可能性があり、経済的なコントロールと家族の結束を弱くするという点だった。これらの懸念は伝統的な相続認識、家族の名誉の考慮、資産の断片化への恐れに深く根付いていた。結果、女性のためのプロポーザルは遅らせられる、あるいは拒まれることが多く、女性たちの社会的、個人的な自由を制限していた。



<参加者>

- 研修を受けた青少年（女性グループ）（立案・実施）、地元の女性青少年、家族（一族）の人びと、女性のマドラサ（宗教学校）生徒、宗教学者、家族の親戚、地域指導者。

<活動・成果・課題の概要>

- 家族構成、居住形態、女性の婚姻状況の記録のための結びついた各世帯の訪問。伝統的に土地所有や結婚に関する決定を行う家族の年配者に関与した。決定をより広い家族内で伝え実行する中年の男性、より若い女性をガイドし、家族の伝統を守る年長女性についても理解。
- 男性の年配者や家族のほか影響力のある男性との会合。主に懸念を聞く。
- 懸念に一回で対処することはできないため、定期的訪問や夕方の集まりの間の短い会話を通した定期的な非公式のコンタクトを維持。
- 家族の女性たちとの注意深く進められた会合。女性たちは、結婚のプロポーザルは、男性の年配者の間での内部議論の後、遅らせられるか断られることが多いことを共有した。年配の女性たちが内部の争いを防ぐために頻繁に沈黙を助言していることを指摘する女性たちもいた。
- 関与を重ねるうちに、数人の年配者は、土地の保護が自身の主要な懸念事項のままであるとする一方、結婚への長引く制限が女性にとって感情的な苦悩や社会的な困難な状況に至りうることを認め始めた。年配者は全くの制限を考え直すことに合意し、結婚のプロポーザルを自動的に断るよりケースバイケースで検討する意欲を示した。また、制限的な結婚の慣行のみに依拠するかわりに土地所有を守るために法的で文書化に基づいた措置を模索することにオープンであることも示した。家族の伝統を変え、娘たちの結婚への前向きなアプローチをとることを約束する年長家族もいた。
- 多くのパシュトゥンの家族はこの件でサポートするのに前向きでなく、地域の長老の大多数が、大きな困難を作り出した。地域の人びとの1人は青少年たちに、怒鳴った。なぜ私たちの地域に来て、私たちと女性たちに関する問題について議論しているのか。戻って、再び私たちの地域に来るな、と。そうした状況下、活動は上記のように大きな成果を上げた。

【活動5：アフガニスタンとの交流・平和のための両国間の連帯】期間を通じて、アフガニスタン難民の人たちの活動参加を実現。また、アフガニスタンとパキスタンのコミュニティ間の共生自体を目的とした活動も青年のピースアクションの1つとして実施されている。詳細は各活動項目参照。

4. 活動の成果

◎困難な状況の中での活動：悪化する治安状況下、青少年、地域の人びと、様々な分野の人たちによる積極的な活動参加があり（関係者協議63人・指導者研修25人・アクション約510人（運営側64人は含まないと考えられる）、地域での争いや解決などについての議論、地域の平和のためのアクションなどが実施された。本活動の場自体が極めて貴重で、参加者や社会にとっても希望になっていることを示している。

◎今年度の新規の試み：青年たち自身が立案・実施する平和活動（地域ピースアクション）を、意識啓発を行う性質の活動というよりも、特定の具体的な問題解決に取り組む性質の活動とし、単発のイベントというよりも、期間中の半分近くをこれにあてるという新規の試みを行った。厳しい状況の中だけに、極めてチャレンジングな、そして、その中で具体的問題解決に取り組むだけに、極めてインパクトのある活動である。

◎22年度からの新規の試み：よりアフガニスタンとの国境地帯に近い地域（ハイバル）での活動を今年度も行うことができた。23年度の新規の試み：2021年の激変を受けて難民となったアフガニスタンの青年たちの活動参加を、今年度も図ることができた。

◎女性たちの参加：依然、活動参加には困難が多いが、女性たちの活動参加を実現できた。

◎青少年への平和的な場の提供・青少年や平和活動への理解協力促進・平和活動促進：上記により、過激主義の影響を受けやすい青少年への平和的・非暴力的な自己表現・実現・肯定や社会参加の場の提供、地域社会全体での青少年や平和活動への理解と協力の促進、青少年の活動を通じた社会の平和につながる活動自体の促進ができた。

◎活動地内外への波及の成果：活動参加者は様々な地域の青年たち、地域の人たちであり、活動参加後に、自身の地域やほか様々な地域にその学びや経験を共有し、平和の活動が広がっていくことが期待される。さらに、地域社会の多様な主体の参加、人びとに敬意を持たれ影響力のある宗教指導者の参加もあり、今後の平和の活動の広がりが期待される。

◎パキスタンとアフガニスタンの青少年・人びとの交流：関係者協議、指導者研修、ピースアクションで両国出身の人びとがともに参加する機会があり、ピースアクションでは両者の共生自体を目的とする活動もあった。活動参加者や関係者、また一定程度、こうした交流・連帯の様子に触れた他の人びとにも影響を与え、両国ならびに両国出身者間の信頼醸成や平和に向けた連帯と活動につながっていくことが期待される。

◎活動の持続性：過去の活動参加の青年が運営側に参加するなど、活動の持続性が担保された。

5. 今後の課題

◎現地の治安状況はさらに悪化している。パキスタンとアフガニスタン両国の対立も、さらに激しくなり、深刻になっている。こうした状況に対抗するため、引き続き、社会に根付き継続した取り組みを実施する必要がある。

◎女性の権利侵害、行動や活動制限が依然あり、引き続き女性の権利保護促進、活動参加を図る必要がある。

以上